

「悲しみに寄り添う」心で
リンドウを育てる

佐藤佳子さん(75)

秋田教会

秋田県南部に位置する由利本荘市の中心地から南東へおよそ四十キロ、鳥海山を望む自然豊かな田園地帯に、佐藤佳子さんと夫の安男さん(80)が所有するリンドウ畑がある。約一五〇〇平方メートル、実にテニスコート六面分の広さだ。

リンドウは秋の花として知られ、近年は仏花としての需要も高い。取材に訪れた七月中旬には、盂蘭盆に合わせた極早生のリンドウが青紫色や白色の花を咲かせていた。

佐藤さんの住む同市鳥海地区では二〇〇五年、使わなくなった田畑の有効利用と農業従事者の所得向上を目的に、「秋田鳥海りんどう」の生産に着手。佐藤さんも市の要請を受け、水田をリンドウ畑にして栽培を始めた。

農協の指導を受けながらのスタートだったが、最初から順調だったわけではない。剪定に失敗して小ぶりの花しか咲かなかったり、色づきが悪かったり……。加えて、地球

温暖化による天候不順で思うように生育しない年もあった。それでも、毎日畑に出て試行錯誤を繰り返し、今では一回の収穫で一万余本から二万本を出荷するまでになった。「天候ばかりは、どうすることもできません。私らにできるのは苗木一本一本に手間暇をかけ、大事に育てることだけ。あとは神仏にお任せです」と二人は口をそろえる。立正佼成会秋田教会で、人間も植物も大自然の一員であり、みんな尊いいのちを宿していることを学んで、その感を一層強くしたとも話す。

昨年、今年と七月に豪雨が秋田県地方を襲い、各地で水害が発生した。秋田教会の会員にも被害を受けた人がいた。佐藤さんは二年続けて、初採れのリンドウを教会道場と本荘道場に贈った。「つらい状況にある人の心に寄り添い、少しでも癒やしたい」との願いからだという。「悲しむあなたを愛する」——。リンドウの花言葉だ。

